平成 22 年度第１回宇都宮市冒険活動運営協議会会議議事録

〇日時　平成 22 年 10 月 7 日（木）　9:30 ～ 11:30

〇会場　宇都宮市冒険活動センター　会議室

〇出席者氏名

・高梨　敏朗委員　･神長　信夫委員（副会長）　･福田　智恵委員　・佐藤ハツエ委員　・新嶋　高行委員
・伊東　明彦委員（会長）　・沼尾　順市委員　・田代　広三委員　・坂内　剛至委員　・糸井　陽子委員
・入江　尚見委員

（事務局）　荒川　英利課長，塩田　雅明所長，海老原　勝副所長，矢野 学指導主事　稲澤　正明指導主事

〇欠席者氏名

・堀江　佳代子委員　・森川　澄子委員

〇公開　（傍聴者の数　０人）

１　開　　会

２　あいさつ

３　委員紹介

４　役員選出

会長：伊東　明彦委員，副会長：神長　信夫委員

５　議　　題

(1)　報告事項

①　平成 21 年度事業報告について（ア　学校受入事業）・・・資料　1

事務局　：　（資料にそって説明）

神長委員：新しく取り入れた活動があれば教えていただきたい。

事務局　：特に新しいものはないが，「基地作りキャンプ」と「野外おやつ作り」を同時に行い，出来上がった基地の中でおやつを食べるといった，既存の 2 つの活動を融合させて取り組んだ例がある。

神長委員：陽南中が新型インフルエンザのため年間計画どおり実施できなかったということだが，新たな日程で実施できたのか。

事務局　：中学校側と新たな日程での実施について調整をしたが，うまく日程がかみ合わず，那須甲子少年自然の家で実施することとなった。

議　長　：スターウォッチングの活動は，悪天候の場合にどのように対応しているのか。

事務局　：天文シュミレーションソフトがあり，屋内でプロジェクターで投影し，代替としている。

神長委員：中学生限定の活動はどんなものがあるのか。

事務局　：アドベンチャーゲーム，マウンテンバイク，カヌーの 3 つがある。

佐藤委員：「活動プログラム実績」の回数のカウント方法について知りたい。

事務局　：同じ学校であっても，1 回実施すればカウントしている。

田代委員：学校の活動は資料にあるもので固定化されているのか。

事務局　：こちらが提供している活動は資料のとおりである。大多数の学校は，この中から活動を組み合わせてプログラムを作成しているが，「絵手紙を書こう」などと学校オリジナルの活動を取り入れたり，基地作りではハンモックを持ち込んで，一部アレンジをしたりしながら行った例もある。

①　平成 21 年度事業報告について（イ 主催事業，ウ 利用状況）　・・・資料　1

事務局　：　（資料にそって説明）

新嶋委員：冒険キャンプ②では，定員 70 名のところ申し込みが 122 名あり，参加者が 66 名と定員を満たしていないのは，キャンセルがあったからだと思うが，キャンセル料はどのようにしているのか。

事務局　：事前に料金を徴収していないので，キャンセル料はいただいていない。ただ，途中で体調などの不具合により帰宅するケースについては，それまでの実費をいただいている。

坂内委員：自然体験活動指導者養成研修会などの参加者の少ない事業についての対応策を聞きたい。

事務局　：仕事を持っている人にとっては 3 日間という日程が厳しいのではないかと捉えている。そこで県内の大学にも声をかけるようにしている。今年度は新たに白鴎大学の学生の参加があった。

田代委員：一般利用者数の目標値があったら教えてほしい。

事務局　：平日については，宇都宮市内の小中学校が年間を通して使用している。学校利用のない夏休みは一般利用の方々でロッジ・野外炊飯場など大部分がうまっている。特に数値目標を掲げているわけではないが，現状に満足することなく，新たな利用者の拡大に努力していきたいと思っている。

議　長　：実人数と延人数の違いは何か。

事務局　：延人数は実人数に利用日数をかけて計算している。

②　平成 22 年度事業計画について（ア　学校受入事業，イ　主催事業）・・・資料　2

事務局　：　（資料にそって説明）

糸井委員：活動で使用している施設の安全確認はどのように行っているのか。

事務局　：１か月に 1 度の割合で公園内の安全点検を行っている。また，活動が始まる直前にも毎回実施している。

新嶋委員：私は「親子でクワガタ・カブトムシ教室」という事業に取り組んでいる。この事業では最終的にリピーターとなっていただいた参加者が，育てたそれらの昆虫を地元の森にかえすことを目標に行っている。こちらの施設でも同様の取り組みができるのではないだろうか。

沼尾委員：私もそのような事業の取り組みを期待している。しかし，現在篠井地区周辺の山々はイノシシでいっぱいであり，何頭も交通事故死しているようである。このイノシシは，クワガタやカブトムシの幼虫もえさにしているようである。地元でも何らかのイノシシ対策を検討している。

事務局　：以前カブトムシの幼虫の育っていく過程を展示したことがあり，成虫になったものを森に放した結果，その夏はたくさんのカブトムシが見られた。しかし，来園者がたくさんのカブトムシを持ち帰ってしまい，昆虫の採集について頭を悩ませたことがあった。ここが，カブトムシやクワガタが宿る森となるよう今後対応策を考えていきたい。

坂内委員：地元の漁協では禁猟区をもうけている。この公園内でも昆虫の観察ゾーンなどとして採集できないエリアを設けてみてはどうだろうか。

事務局　：ぜひ参考にさせてもらいたい。

福田委員：2 点伺いたい。1 点目は陽光小で実施された親学講座について，もう 1 点はイノシシへの対応策についてお願いしたい。

事務局　：親学講座では「今あらためて自然体験活動」というタイトルのもと，約 1 時間の中でワークショップも取り入れながら，保護者・地域の方々・先生を対象に 70～80 名の方々の中で行った。今回は冒険活動教室の説明を中心に実施したが，参加者の要望に応えられるよう内容については今後さらに検討していきたい。2 点目のイノシシに対する対応策だが，やぶの伐採や，下草刈りを行っている。また，公園内を夜間巡回する警備員にはイノシシ出没の記録を作成してもらっている。今後もっと頻繁に出没するようになれば新たな対応策を考えていきたい。

福田委員：イノシシに対しての有効な対策があれば伺いたい。

事務局　：類似施設では電気柵を設置しているところがある。

田代委員：県と市で対策を行っている。県内のイノシシの生息域は県南西部から北上し，拡大しており，この周辺に多く見られるのはその影響だろう。昨年度はおおよそ 6900 頭を捕獲した。現在は捕獲以外の対策として，イノシシを寄せつけない環境づくりを行っている。子供たちへの安全教育としてイノシシと出くわしてしまったときの対応を学ぶ機会を設けることも必要だろう。

議　長　：専門機関との連携は図れているのだろうか。

田代委員：県・市の関係機関との連携を図っていってほしい。

佐藤委員：親学が実施されたことに関して，私は陽光小の地域に住んでおり，地域住民として学校と関わりを持っている。地域の方から，講座が非常に好評だったと聞いている。さらに拡大させ，この施設のＰＲを行っていって欲しい。

⑵　協議事項

①　今後の冒険活動事業について・・・資料　3

事務局　：　（資料にそって説明）

福田委員：来年度より，小学５年生及び中学１年生が２泊３日で冒険活動教室を実施するということだが，中学生が４日間から３日間の実施となり，日数が１日減ってしまうことで，体験できる内容が減ってしまうことが心配である。

事務局　：自然体験活動では，長期で実施した方が教育効果が上がることは事実である。本市で進めている小中一貫教育などから９年間の義務教育を見直すことによって冒険活動教室は２泊３日になったわけだが，私たちは与えられた日数の中で参加した児童生徒にとって充実した冒険活動教室となるようベストを尽くしていくつもりであり，またその準備を現在も進めているところである。

神長委員：中学生を引率する先生方にとっては，４日間家を留守にすることで負担に感じるとの声もあった。特に小さなお子さんを抱えた女性の先生からの意見が多かった。また，中学校は１日減ることになるが欲張らず，ゆとりのある３日間の計画を考えていきたい。

議　長　：日数については市の方針ですからね。

神長委員：中学生の体験日数は減ることとなるが，義務教育での冒険活動教室のトータル日数は同じである。

事務局　：学校の重なりが増えてしまうが，こちらとしてはベストを尽くしていきたい。

神長委員：重なりが増えるとはどういうことなのか。

事務局　：同じ期間または同日に複数の学校を受け入れるということ。今までもあったことだが，来年度はさらに増えることが予想される。

糸井委員：小学校の日数が増えるのは，新学指導要領の影響があるのか。

事務局　：国の方針と県または市の方針が必ずしもリンクしていない場合もある。今回はその影響ではない。

入江委員：小さなお子さんがいる若い先生には，引率が負担になるという話があったが，昔は先生がボランティアのような形で子供たちに関わってくれていたように思う。私が小学生の時には授業以外で剣道を指導してくれた先生もいた。

神長委員：今でもたくさんいる。部活動の指導では先生方はたいへんがんばっている。違いは宿泊を伴うかどうかということだろう。

議　長　：個人的な意見だが，学校の先生は働きすぎではないか。先生の仕事は授業が一番であって課外活動はその次であってよいと思う。

高梨委員：私も若いころはやっていた。小学校ではある時期，社会体育に移行する時期があり先生の関わりが減ったのはその影響もあるのではないか。また，現在学校現場は非常に忙しく，先生方にその余力があまり残っていないのも事実である。

福田委員：現代の子供たちは社会性が失われているとよく言われるが，そのような中，宿泊体験はたいへん有効だと思っている。中学生には今までどおりの日数で実施して欲しかった。今後は地域学校園という考え方を取り入れて実施していくということだが，３日間の活動プログラムを作成する際は，小中の先生方が一緒に集まって作っていくことになるのか。

事務局　：地域学校園の考え方に基づいた取り組みの準備が現在すべて整えられているわけではない。平成24年度に全市で取り組み始めたときに，各学校の連携の仕方や状況を踏まえたうえで，こちらも対応していきたいと思っている。冒険活動教室を実施する際に，学校にはそれぞれのねらいがあるはずなので，こちらから一方的に連携だからといって進めることはできないと思う。

福田委員：学校の利用計画が大きく変わる中で，学校の土曜日利用日数も増えるようであるが，一般利用者が減ると収入に大きな影響が出るのではないか。また，21年度の活動実績を見ると「テント生活」の活動が小・中学校とも０となっているが，23年度に向けてテント利用をどのように増やしていくのか。この２点についてお聞かせいただきたい。

議　長　：あわせて，臨時職員を増やしていくなどの計画があるのかについても教えていただきたい。

事務局　：まず，テントの使用についてであるが，「テント生活」は活動の１つであってテントの使用がな

いということではない。テント宿泊はほとんどの中学校が実施しており，23 年度からは同じ期間での受け入れ学校が増えることから，小学校についても使用については増えるだろう。
次に一般利用者への影響だが，学校の土曜日利用については 10 月～3 月の時期を中心に考えている。この期間はもともと一般利用者の少ない時期であることから影響も少なく，従って大きな収入減にはならないと考えている。

課　長　：23 年度の学校受け入れに向けて，予算計画を立て準備を進めている。今後とも，スムーズな運営ができるよう関係各課と連携を図りながら準備を進めていきたい。

福田委員：あわせてイノシシの安全対策についてもお願いしたい。

課　長　：現状を踏まえながら検討していきたい。

坂内委員：一般の利用者という立場からお願いしたい。施設の利用日や時間に制限があると利用しにくく思う。例えば，私も取り組んでいる自然体験活動の指導者を養成するための事業では，3 日の期間が必要であり，連続してできる 2 泊 3 日の設定が理想的である。しかし，ここのように月曜日が祝日であっても休館日であると，そのような設定ができない。何とかならないだろうか。

事務局　：祝日の月曜日の扱いについては今までもさまざまな方からご意見をいただいている。しかし，職員の勤務体制や施設の維持管理を考えると現状では難しい課題だと思っている。

沼尾委員：うどんの「はるな」の営業日は，利用者本位の考え方から，今後祝日の月曜日は営業しようと思っている。

事務局　：平日は隙間なく学校が利用しているので，月曜日を利用日としたときの職員の振替日を設定することが難しく，現状では苦しい課題である。

糸井委員：ロッジの全棟にエアコンが設置されたと聞いているが，それに伴って利用料金の変更はあるのか。また，昨今環境問題についてさまざまなところで叫ばれているが，一般の利用者に向けて環境問題を考える活動はあるのか。

事務局　：ロッジの利用料金の変更は考えていない。2 点目については今のところ一般向けには環境教育を扱う活動はないが，今後検討していく内容だと思う。

入江委員：現在私の子供が通学している小学校では，週に 1 日 2 時間程度の時間で「にこにこ教室」という放課後の活動が始まった。そのような折に，冒険活動センターの職員が出張のような形で学校に出向き，活動を支援していただくことはできないだろうか。

事務局　：そのような対応はできると思う。また，来年度の前半は，平日に学校利用がないときがあるので，遠足や校外学習などでこちらに来ていただき，活動することもできると思う。

議　長　：他にご意見はありますか。いろいろなご意見を頂戴いただきました。今後に生かしていっていただければと思います。それでは，協議を終わらせていただきます。ありがとうございました。